

2015 年度公共施設に関するアンケート調査 調査結果より抜粋

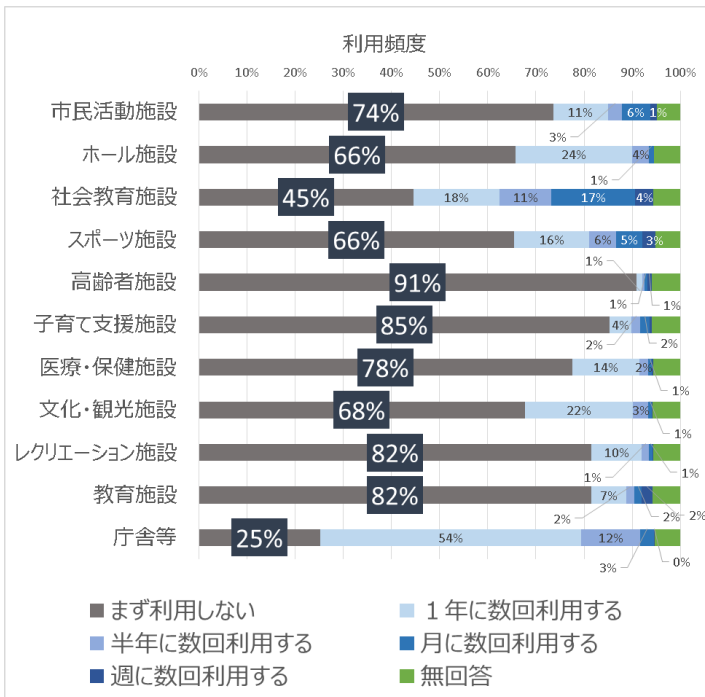
〔実施期間〕

2015 年 9 月 17 日～10 月 5 日

〔送付数〕

3000 人（市内在住の 15 歳以上の方、無作為抽出） 回答 1303 人（43.4%）

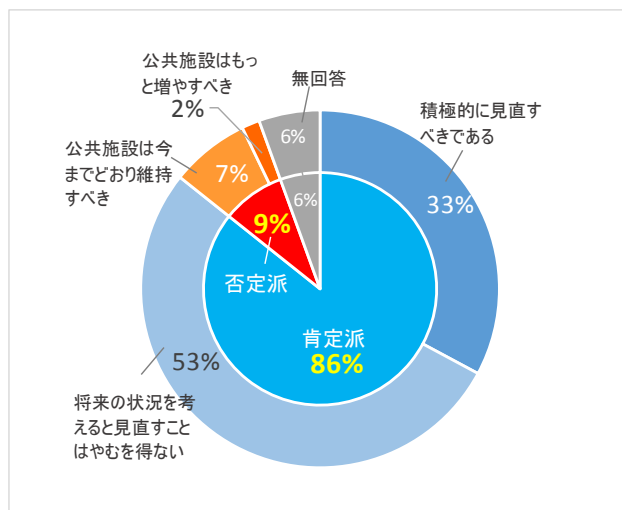
Q. 公共施設の利用頻度



市役所や市民センター等の庁舎等については約7割が利用しており、次いで図書館(社会教育施設)は約5割が利用していると回答している一方、それ以外の施設については「利用する」と回答した率がいずれも3割に満たない。

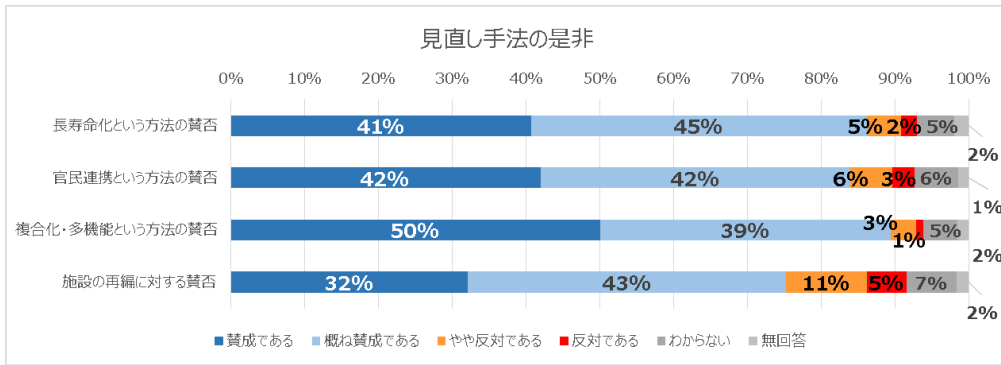
Q. 公共施設の見直しに対する意見

積極的に見直すべきと考える人が32.8%、将来の状況を考えると見直すことはやむを得ないという意見が52.9%となっており、合わせて85.7%の方が見直しが必要だと感じている。

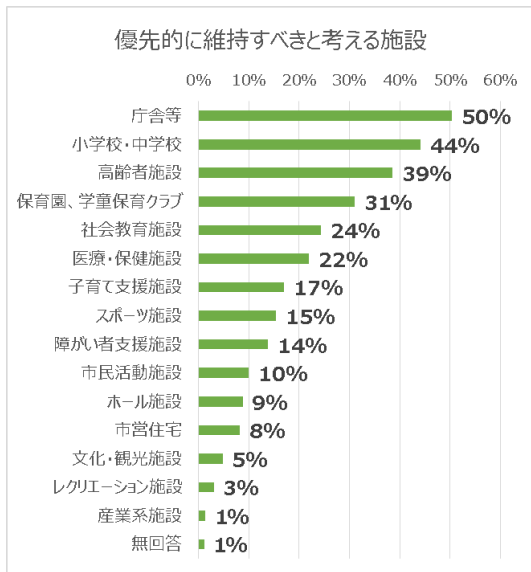


Q. 公共施設の見直し手法に対する是非

施設の複合化・多機能化を活用して施設の総量を減らしていくという考え方について、賛成が 50.1%、概ね賛成が 39.4%と合わせて 89.5%とほぼ 9 割の方が賛成の意向。その他の手法についても、賛成・概ね賛成が多数を占めた。



Q. 残すべき施設と見直すべき施設



将来にわたって優先的に維持すべきと考える施設は、市役所や市民センター等の庁舎等が一番多く 50.3%、次いで小・中学校 44.1%、高齢者施設 38.5%であった。

重点的に見直していくべき施設としては、利用者が少ない施設が一番多く 67.4%、次いで近い範囲に同じような施設が重複している施設 51.9%、高い維持費用がかかっている施設 45.9%であった。

